

# 平成14年度大学情報化職員研修会

## 開催要項

A日程 平成14年9月18日(水)～20日(金)

B日程 平成14年9月25日(水)～27日(金)

社団法人私立大学情報教育協会  
研修運営委員会

平成14年度 私情協研修事業一覧	
7月	大学情報化職員基礎講習会
8月	学内LAN運用管理講習会
8月	授業情報技術講習会
9月	大学情報化職員研修会
10月	情報センター等部門研修会
11月	事務部門管理者会議

## ． 研修目的・テーマ

この研修会は、職員が担当部署で情報技術を活用して教育支援に積極的に関与し得るよう、日常業務の情報化をはじめ意思決定支援のための情報システムの構築と活用などについて、職員一人一人の情報活用能力の向上を図ることを目的として開催するものです。

研修は4つの大きな基本テーマ「大学の事務情報統合化」、「教育の情報化支援」、「経営に関する意思決定支援」、「インターネットと情報共有」に基づき学内事務システムの様々な切り口からグループを設定し、情報化のための環境作り、運用・効果、体制等に関する問題全般について、グループ内の参加者相互によるシステムの事例紹介、討議をもとに理解を深めます。

よって、単なるIT化について情報交換するものでなく、「共生と競争の時代」を迎えるこれからの大学の中で職員各自が「情報」を活用し、大学に寄与することを、参加する多くの大学の職員とともに考える場としたいと考えています。

研修会テーマ：「大学の変革期における事務情報化の目指すもの」

## ． 研修内容

学内の基幹業務あるいは業務を横断するテーマについて、討議と事例研究を行い、問題解決の方法について理解します。また必要に応じて専門家・経験者を招いて講演を聴き質疑応答・意見交換等を行います。

1． A日程（6グループ） 9月18日（水） ～ 20日（金）

大学の事務情報統合化	
・ 学生基本情報の構築（入学選抜から校友会まで）	
A-1	入学業務
A-2	学生基本情報管理
・ カリキュラム改革と履修支援	
A-3	履修登録と成績管理業務
A-4	カリキュラム・時間割管理とシラバスデータベース
・ 学生生活支援（奨学金・保健管理・厚生補導）	
A-5	奨学金管理業務
・ 就職支援（キャリア支援）	
A-6	就職支援

2 . B日程 ( 6グループ) 9月25日(水) ~ 27日(金)

教育の情報化支援	
・ 学術情報サービス	
B-7	学術情報サービス
経営に関する意思決定支援	
・ 経営に関する意思決定支援 (財務・会計・人事・給与)	
B-8	経理・会計
B-9	人事・給与
B-10	学園の戦略情報化計画
インターネットと情報共有	
・ ITを利用した業務の効率化と学内広報	
B-11	グループウェアを利用した業務改革
・ 戦略としてのweb広報	
B-12	ホームページを利用した情報公開と情報共有

## ・ 基調講演

講師：井原 徹 氏 (早稲田大学理事)

講演テーマ：大学の変革期における事務情報化の目指すもの (私立大学経営の実践的側面)

コンピュータを中核とする IT 革命の波が大学にも押し寄せ、書類作成・送達、意思 (情報) の伝達・発表、計算・データ処理等のあらゆる面において、まさに「事務」は革命的变化をもたらしている。また、そのことに伴う「サービス」も様相を変えてきている。

そうした中で「業務管理」「意思決定」「組織編成」においてどのような方向性を模索したら良いかを中心に、次の視点からこれからの大学を担う職員へ向けて講演を行うものである。

意識改革の必要性

改革の原点と改革案作成

大学における「経営」の位置付け (教学と経営の調和)

情報化で得るものと失うものは何か

IT時代の業務管理、意思決定、組織編成の基本的な考え方

私立大学における「経営の三種の神器」

職員業務への「第三者評価」導入の必要性

## ・ 研修方法、研修期間

各日程とも、2泊3日の合宿研修です。

A日程：平成14年9月18日(水)～20日(金)

B日程：平成14年9月25日(水)～27日(金)

## ・参加資格

加盟大学職員： 当協会加盟大学・短期大学の職員で、大学業務の情報化に携わる方。グループのテーマに関心がある方で、積極的に意見交換できる方。

賛助会員： 本研修会の開催内容に関連する当協会賛助会員企業の方で、討議に積極的に参加の上、関連情報の提供などにより参加グループの討議促進に貢献できる方。

## ・参加者レポート

参加者は、参加するグループのテーマについてレポートを提出の上、グループ内で交換し、事前に討議・発言の内容を研究することとします。

レポートの作成方法については「[参加者レポート作成要項](#)」をご参照ください。

## ・募集定員

各グループとも、定員を30名程度とします。

## ・参加費（宿泊費は含みません。）

1人 27,500円

## ・開催会場および宿泊

<会場> 『グランドホテル浜松』

<所在地> 静岡県浜松市東伊場1-3-1 TEL:053-452-2111

<交通機関> 東海道新幹線「浜松駅」下車。浜松駅より送迎バスを用意いたします。バス発車時刻、集合場所等については、後日、参加者確定通知に含めて連絡いたします。

<宿泊費> 1人 26,000円

本講習会は合宿研修のため、参加者は全員グランドホテル浜松に宿泊していただきます。（部屋割りは当方で決めさせていただきます。なお、部屋割りは原則として大学毎、参加グループ毎の2名以上の相部屋としますのでご了承下さい。）

宿泊費は、開催日第1日目受付時に、参加者個人別にホテルへお支払い頂きます。

## ・参加申し込み方法および締切期日

以下2点を大学ごとに一括とりまとめて同封し、8月23日（金）までに私情協事務局まで郵送にてお送り下さい。締切日以降でも定員に余裕があれば申込を受け付けますので、事務局にお問合せください。

1. 参加申込書 . . . 貴学の参加者全員についてとりまとめの上、作成してください  
(各大学で1通作成)

参加される方々全員の名前、役職、参加を希望されるグループ等、所定事項をみれなく記入してください。開催要項に添付の参加申込書に記入いただくか、あるいは、私情協Webページに掲載のMS-EXCELワークシートをダウンロードして作成願います。

([http://www.shijokyo.or.jp/LINK/news/kenshu/14shokuin\\_app.xls](http://www.shijokyo.or.jp/LINK/news/kenshu/14shokuin_app.xls))

MS-EXCELにて作成の場合には、ワークシートファイル、印字出力したワークシートの両方を同封してください。ワークシートファイルは「2.参加者レポート」と同じフロッピーディスクに納めて下さい。

2. 参加者レポート . . . 各々の参加者全員が作成し(各大学参加人数分作成)  
「参加者レポート作成要領」により各参加者が作成の上、参加者全員分の参加者レポートを納めたフロッピーディスク、および印字出力した文書を同封してください。

募集締め切り後、事務連絡担当者宛に参加者確定等についてご案内いたします。  
(9月2日頃になります)

<申込先> 〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-14 1山崎ビル4F  
社団法人私立大学情報教育協会 事務局  
TEL:03-3261-2798 FAX:03-3261-5473

## 参加費納入方法

参加費は、参加者確定後、大学ごとに一括して9月13日(金)までに銀行振込によりご納入ください。

<振込先> あさひ銀行 市ヶ谷支店 普通預金  
口座番号:0054409 名義人:(社)私情協

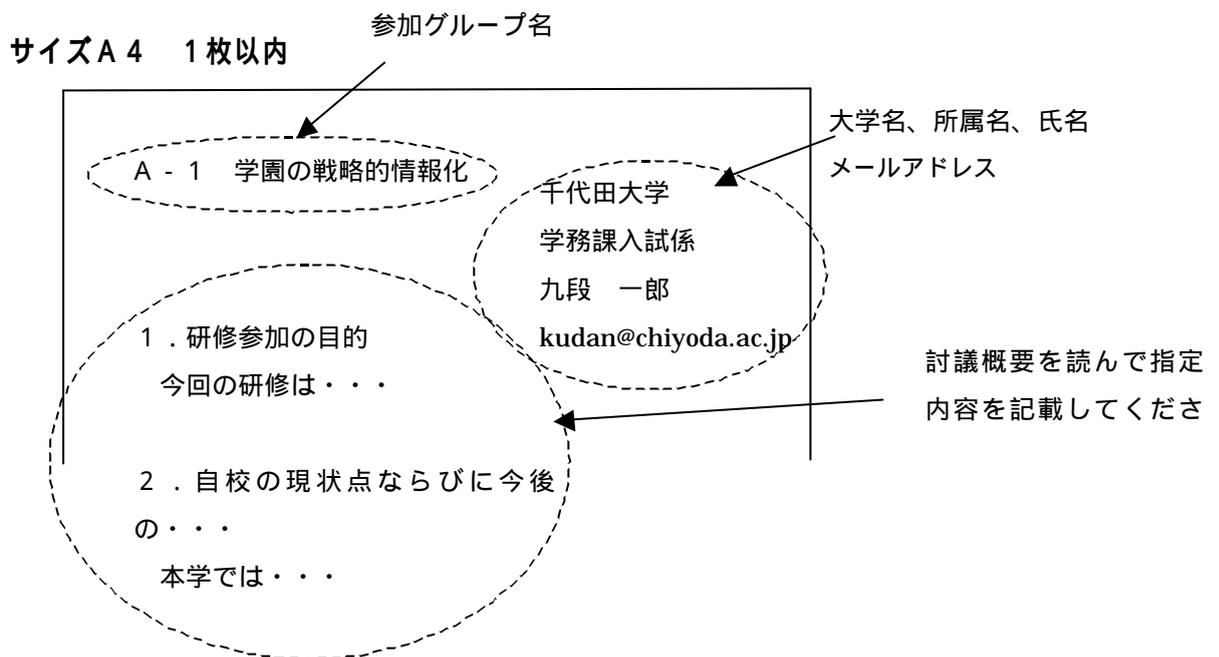
## 研修会報告書

本研修会終了後、報告書を刊行し参加者全員に送付いたします。

## 参加者レポート作成要領

『各グループの討議概要』に記載された参加者レポートの記載項目を参照の上、以下の形式で作成してください。

レポートは事前に同グループの参加者に配布され、討議の参考資料といたします。



レポートの提出は、参加者全員分の文書ファイル(MS-WORD等)を納めたフロッピーディスク、および印字出力した文書を同封してください。文書ファイルは大学毎に1枚のディスクにまとめ、参加者名をファイル名にしてください。

例 kudan.doc

## ・各グループの討議概要について

A日程 9月18日(水) ~ 20日(金)

### A - 1 入学業務

1. グループ討議のメインテーマ  
「今後の入試制度と情報化」
2. グループ討議の内容・形態

大学は18才人口の減少により、受験生の確保が厳しい時代の真っ只中にある。各大学は入学者選抜方法の多様化や特色ある入試といった入試制度改革を実施し、受験生の確保を行ってきた。また、受験者数の減少による収入減から、入試業務の経費削減も余儀なくされており、入試業務の合理化や入試システムの見直し等の対策を行っている。

こうした状況の中、入学者選抜方法の多様化は頭打ち状態になりつつあり、入学してきた学生の学習能力の低下などといった新たな問題も起こり始めており、受験生の数だけの獲得に走った入試改革から、大学の本質である人づくりの視点から新たな入試制度改革を模索せざるを得ない状態にある。

そこで、本コースでは、各大学の現行の入学業務全般(入試制度・入試システム・追跡調査等)の抱える問題点と今後の課題等を披瀝いただき、上記の問題を解決する一つの手段としてのITの可能性と限界について討議をしながら、解決法を模索していくことにしている。

<サブテーマ>

- ・入学者選抜制度の展望  
学生募集から入学処理までのITの活用、AO入試、社会人入試などへのITの活用
- ・入試・入学後データ分析による問題点  
入試データの戦略的な活用（志願者動向の的確な把握、入学自・卒業時の成績比較による入試制度の検討など）
- ・今後の入試制度改革

### 3. ミニ事例発表

参加者事前レポートの内容から、3～4のミニ事例発表をお願いする予定である。積極的に引き受けいただきたい。

### 4. 参加者レポートの形式

グループ討議の円滑運営のため、下記事項を項目別レポート（A4版1ページ以内）として事前に提出していただく。

- ・研修参加の目的  
上記サブテーマのキーワードについて「自校の現状と問題点」および「今後の計画と情報システムに望むもの」
- ・情報交換希望項目  
特に、この研修会の中で他大学の状況等について確認したいこと。

## A - 2 学生基本情報管理

### 1. グループ討議のメインテーマ

「学生サービスとしての個人情報の活用」

### 2. グループ討議概要・形態

学生の個人情報には、属性、成績履修、行動履歴等、様々な情報が含まれているが、それらの情報をどのような方法で収集、分析を行い活用すれば学生のキャンパスライフをより満足度の高いものとすることができるだろうか。また教育効果を高めるために教員へどのような形で学生の情報を提供すればよいのだろうか。

本コースでは、学生情報を利用する場合の留意点、特に個人情報の保護という視点から次のステップである情報の活用に向かって討議する。特に、（1）学生情報の有効利用を妨げるものへの取り組み、（2）個人情報の保護や管理体制の確立へ向けての考え方、（3）教職員間あるいは職員部門間での連携体制の枠組みについて意見交換しながら問題解決のための手法を模索する。

#### <サブテーマ>

- ・学生情報を活用した学生サービスへの取り組み
- ・学生情報を活用した教育支援への取り組み
- ・個人情報の保護とは何か
- ・学生情報を通じた教職連携と部門連携

### 3. ミニ事例発表

参加者事前レポートの内容により、数件のミニ事例発表をお願いするとともに各大学の状況報告をお願いする。

限られた時間の中で出来る限り多く発言の機会をつくりたいため、討議は小グループ（8～10名）に編成して行う。

### 4. 参加レポートの形式

下記項目について、A4版1枚程度にまとめ事前提出することを参加の必須条件とする

- ・このグループへの参加動機
- ・自校の学生情報システムの運用状況
- ・今回のテーマに沿った情報交換希望事項

### A - 3 履修登録と成績管理業務

#### 1. グループ討議でのメインテーマ

「カリキュラムの刷新に伴う教務事務のIT活用と学習支援」

#### 2. グループ討議内容・形態

GPA、セメスター、大学間単位互換、学力別クラス編成など、教学の根幹をなす新しい制度の導入が進行するなか、膨張され複雑化したカリキュラムに対する学生の理解は低下している。オフィスアワーによるきめ細かな助言など、学習指導・履修指導体制を充実させることが求められる。また、学生にわかりやすい授業を提供するための教授方法の改革と並行して、Webを利用したシラバスの公開や履修登録など情報技術を活用した改善への取り組みが行われるなか、学生に自己の能力を認識させ自立的な学習を促すことを目的とした、新たな取り組みも求められている。

本コースでは、このような新しい取り組みや制度を取り上げながら、履修登録と成績のフィードバックを通じた学習・履修指導の方策について、学生に対する学習支援と学習指導体制を整備するという両方の視点から課題、問題点を整理し、情報技術を活用した解決策について討議する。また、教員と職員の協働のあり方についても議論を進めたい。

##### <サブテーマ>

- ・GPA制度導入と成績評価（成績管理システムによる学習指導支援環境）
- ・単位認定制度の拡大（大学外学修、外国の大学、遠隔教育等）
- ・Web活用による履修登録
- ・成績処理の迅速化・高度化
- ・履修情報の共有と活用
- ・セメスター（秋学期入学を含む）とカリキュラム
- ・授業環境の改善（授業評価、学力別クラス編成、多人数教育の是正等）

#### 3. 事例発表、ミニ事例発表の有無

参加者事前レポートの内容から、2～3のミニ事例発表をお願いする予定である。

#### 4. 参加者レポート

グループ討議の円滑運営のため、下記についてA4サイズ1枚以内にまとめて事前提出していただく。

教務事務部門での業務経験年数

自学の現状（制度導入）と情報技術活用事例

成績処理の迅速化に関して計画や事例

現在の課題と討議希望事項

### A - 4 カリキュラム・時間割編成とシラバスデータベース

#### 1. グループ討議でのメインテーマ

「キャンパスライフ支援のためのカリキュラムとシラバス」

#### 2. グループ討議内容・形態

学生一人一人の多様な学びを支援し、キャンパスライフを充実させるためにどのような環境を学生に提供す

べきだが、今、私学にとって重要な課題になってきている。特に履修計画の重要な情報源であるシラバスについては、できるだけ早い時期に良質のものをネットワーク上で提供することが必須となってきている。また、大学運営の観点からも、時間割情報が持つ意味は大きく、教員の出講調整、施設利用効率の向上、補講・試験時間割の効率化などを勘案し、学年歴の編成にまで情報活用を広げる必要がある。

このグループでは、時間割とシラバス情報をもとに、学生キャンパスライフ支援のために教職員一体となってどのような方策を講じることができるか、その基礎となるシラバスデータベースの構築・開示上の課題、カリキュラム・時間割作成における課題について、事例をふまえて情報交換や改善ポイントの討論を深める。

#### <サブテーマと討議予定項目>

時間割の理想形（総合時間割とは）

- ・学生活動支援（自主的なキャンパスライフ設計、長期時間割作成）
- ・大学経営支援、時間割情報の多目的活用
- ・時間割の最適化、編成システム

シラバスデータベースの理想形と提供方法

- ・シラバスデータベース検索システムと履修登録
- ・授業評価の反映、学生とのコミュニケーション
- ・シラバス編集システム（学部、学科での内容認証）

教学事務のIT化と改善（カリキュラム・時間割・シラバス作成を中心に）

- ・学内情報共有化（資産、施設の有効活用、業務の効率化、高品質化）
- ・大学事務組織と教職員の意識改革
- ・情報開示と説明責任

### 3. ミニ事例発表

WEB を利用したシラバス登録・検索システムの事例、時間割編成システム事例、電子シラバスを活用した履修登録システム事例について、参加者レポートの内容を配慮し、2～3のミニ事例発表をお願いする予定。

### 4. 参加者レポート

グループ討議の円滑運営のため、下記についてA4サイズ1枚以内にまとめて事前提出していただく。

教学事務部門での業務経験年数

時間割編成、シラバス作成・提供の自校での現状と課題

情報共有・教学改善の取り組みに関する自校での現状と課題

討議希望事項

## A - 5 奨学金管理業務

### 1. グループ討議のメインテーマ

「大学における経営戦略としての奨学金制度」

### 2. グループ討議の内容・形態

1998年大学審議会の答申を受けて、翌年度から日本育英会の奨学事業が拡大され、国の奨学金政策が、これまでの「育英型」から「奨学型」へと転換してきている。一方、長引く不況の中、私立大学では、奨学金の充実を、受験生確保や教育効果の向上等、生き残りをかけた戦略として活用しようという動きがある。

これまで奨学金管理システムは、募集から返還までの情報管理や事務処理の効率化を主な目的として運用されてきたが、本コースでは、学生生活支援としての奨学金システムのあり方に加え、経営戦略としての奨学金システムの活用方法について情報技術の活用を通して議論を進めることにしている。また、本年度から稼働の日本育英会イクシスへの対応状況についても、情報交換を行いたい。

#### <サブテーマ>

- ・奨学金業務の効率化（選考～返還）

- ・学内情報の共有化と連携
- ・日本育英会イクシスへの対応
- ・大学独自の奨学金とその財源
- ・奨学金システムの活用方法

### 3. ミニ事例発表

参加者事前レポートの内容から、3～4のミニ事例発表をお願いする予定である。積極的にお引き受けいただきたい。

### 4. 参加者レポートの形式

下記事項についてまとめたレポートの事前提出を参加の必須要件とする。

研修参加の目的

システムの構築・運用状況

自校の奨学金制度とその受給者数（別紙 15,16 ページ所定用紙に記入のこと）

情報交換希望項目

## A - 6 就職支援

### 1. グループ討議のメインテーマ

「情報化で実現できる就職支援サービス」

### 2. グループ討議の内容・形態

就職支援は、迅速な求人情報の収集、開示、学生個々の特質に応じた的確な相談、助言、進路指導を行うことである。近年、企業の求人情報は、インターネット等の使用により広範に入手することができるので、大学としてはこの情報の上に、OB、OGなどからによる詳細な現場情報等を常時提供することが必要となる。また、上記のような情報提供以外に大学としては、入学後から、学業と平行して職種、業種を選択することの意義を理解させ、希望する進路への素養を培うことが可能となるように、インターンシップやエクステンション教育などのキャリア支援活動を通じて、自己の能力開発、適応力の向上を涵養させることが望ましい。

それを実現するためには、就職情報はもとより、入学時からの学生個人情報、卒業生（OB、OG）の追跡情報等を収集、整理し、学生にふれあう教職員が適切な情報を入手、共有、活用できる環境を整備し、それを通じてきめ細かい分析による相談、助言、進路指導を行うことが要請されてくる。

本コースでは、就職支援とは何かを考え、教務、学生部をはじめとする学内各部署と連携した支援のあり方について情報技術を活用した新しい就職支援について可能性と限界を討議することになっている。

#### <サブテーマ>

- ・インターネットにおける就職情報の活用
- ・部門間の連携と情報化
- ・就職活動支援業務の体制強化
- ・インターンシップの取り組み、実施効果
- ・卒業生（OB・OG）の情報収集と活用

### 3. 事例発表、ミニ事例発表の有無

参加者全員に、各大学における就職情報化の現状と課題についてレポートを提出して頂き、先進的事例については発表をお願いする。

### 4. 参加者レポートの形式

以下の項目レポート（A4サイズ1ページ）の事前提出を参加条件とする。

参加大学のデータを討議の参考資料とするため、アンケート調査を行う。

(アンケート内容)

- ・参加者の勤続年数、現職勤務年数。
- ・就職担当部署の職員構成(専任、非専任、等)
- ・就職支援への教員の協力体制(主な委員会、活動状況、等)
- ・就職関連の講座の実施内容(資格取得、試験対策 etc. (外注の有無)、参加状況)
- ・他部門との連携、情報化の実現状況(学生情報の相互利活用、他)
- ・インターンシップの実施状況(規模、課題、等)
- ・インターネットを活用した就職支援状況(導入実施内容、利用状況)

稼働システムの状況(現行システム、新システムへの更新計画、稼働状況)  
討議を希望する項目の理由(サブテーマより、複数可)  
現状の就職支援業務の問題点、今後の課題、等。

B日程 9月25日(水) ~ 27日(金)

## B - 7 学術情報サービス

### 1. グループ討議のメインテーマ

「学習および教育支援学術情報サービス」

### 2. グループ討議の内容・形態

大学図書館の情報化は、蔵書データベースを機軸に OPAC や図書貸出・発注などの管理業務システムから始まり、多くの大学図書館がこのレベルでは一定の成果を収め、定着したと考えられる。

昨今は電子ジャーナルや商用データベースの導入など、蔵書の提供を基本とした来館型のサービスから、ネットワーク上の各種情報源を有効活用する非来館型サービスへの変化も求められ、学部紀要や学術報告書またはマルチメディア・コンテンツを含む大学知識情報のDB構築、すなわち自校アーカイビング・サービスへと目覚しく進展している。それは、図書館によって開かれつつあるユビキタスな学習・教育に向けられた「熱い期待」とも言え、今後より加速するものと考えられる。

本コースでは、こうした情勢におけるそれぞれの大学の実態について報告を受けながら、情報技術を活用した学習および教育支援の新しいインフラとしての学術情報サービスのあり方および最近の国語力低下等の指摘に対応した読書啓発を実現させるための支援、技術革新を伴う学術情報の管理・運営面でのソリューションの選択、利用法などを模索する。

#### <サブテーマ>

- ・学術情報サービスと学習・教育支援  
読書を促進させるための教育支援  
(学内 LAN により教員と図書館が連携し、読書の必要性を呼びかける)  
レファレンス(特にカリキュラムとの連携)、教材コンテンツ保存と配信  
電子ジャーナル・電子化資料データベースの共同購入による教材環境の整備  
マルチメディア・アーカイビング、e-Book、e-Learning  
ウェブサービス、ホームページ、情報検索環境、CD-ROM
- ・図書館の情報化  
イントラネット、図書館管理システム、情報機器、OPAC、Z39.50  
多言語対応、NII との連携、e-Library
- ・管理と運営  
組織の統廃合、利用(および学習)環境、館員スキル、専門性育成  
アウトソーシング、情報管理体制、情報化整備計画、固有行事(企画)  
フォーラム、コンソーシアム、館間協力、利用者教育(プログラム)

### 3. 事例発表、ミニ事例発表の有無

参加者事例レポートの内容から、数例のミニ事例発表をお願いします。

参加校の現況報告とテーマについての意見交換を行う。

図書館のホームページのコピーまたは利用案内等 5 部持参。

### 4. 参加校レポートの形式

このグループへの参加の動機、自校の学術情報システムの構築・運用状況、情報交換希望項目について、A4 サイズ 1 ページのレポートを事前提出すること。

## B - 8 経理・会計

### 1. グループ討議のメインテーマ

「経理・財務情報の共有化と経営情報の活用」

### 2. グループ討議の内容・形態

冬の時代を迎えているこれからの大学経営において、経理・財務部門に求められることは、大学の意思決定に必要な情報を、多面的、合理的に分析できる形で迅速に提供することである。学園の将来を見据えた中・長期的教育研究計画(グランドデザイン)を立案していくには、教育研究の実情が把握できるような情報の提示が必要であり、これまでの経理・財務情報のあり方について見直しを行う必要がでてくるだろう。

本コースでは、経営指針を立てるうえで、情報技術を活用して的確な分析が可能な情報とはどのようなものかについて考察する。さらに情報の迅速化、適正化を図るとともに、情報開示・公開についての意見交換も行う。

#### <サブテーマ>

- ・ 情報の共有化・統合化
- ・ 他システムとの連携と活用
- ・ セキュリティ対策
- ・ 経営指針に必要な情報の分析

キーワード：単位従量制、電子決裁、キャッシュレス、情報公開、経営指針  
情報分析、事業評価

### 3. 事例発表、ミニ事例発表の有無

参加者事前レポートの内容により、数件のミニ事例発表をお願いするとともに、参加大学の現状報告をお願いし、これらを参考にしてグループ討議を行いたい。

### 4. 参加者レポートの形式

このグループへの参加動機  
自校のシステムの構築・運用状況  
情報化に対する考え方・問題点  
キーワードに対する意見  
討議希望事項

について、所定用紙のレポートの事前提出を参加の必須条件とする。

## B - 9 人事・給与

### 1. グループ討議でのメインテーマ

## 「改革期に求められる人事・給与システム」

### 2. グループ討議内容・形態

大学がその使命を達成するためには、構成員である教員・職員が建学の精神・教育理念・運営方針を共通に理解し運営に携わることが必要であり、全教職員が一つの方向性を享受して大学改革に取り組むことが重要となる。すなわち、大学としての運営・経営の方針、目的を明確にし、現行の業務スタイルを見直し、あるべき姿を模索することが、改革の第一歩であり、ひいては全学的な改革へと発展していくものと考えられる。このような変革期において、人事管理、労務管理、給与支給業務等を行っている人事・給与部門に求められているものは、雇用形態の多様化、人事考課、事務組織の再編等、大学改革の動きに柔軟に対応できるシステムであろう。

本コースでは、情報技術を駆使して、大学改革の動きに対応した人事・給与システムのあるべき姿を先進校の事例紹介を交えながら、参加者全員で討議し、多様な人事・給与システムのあり方を模索することとする。

#### <サブテーマ>

- ・ 人事制度の多様化に対応したシステムの構築  
    目標管理・考課制度・業績評価・チャレンジシート（異動希望）  
    雇用形態の多様化・ワークシェアリング・人材バンク
- ・ 経営戦略に直結した人事・給与システム  
    昇給・賞与のシミュレーション・組織統廃合シミュレーション
- ・ 人事情報の共有とセキュリティ  
    人事と給与システムの連携、給与と経理システムの連携  
    教職員情報の参照・更新・検索と権限
- ・ 人事システムとWEB連携  
    給与明細書のWEB化（ペーパーレス）、住所等変更手続等申請業務のWEB化

### 3. 事例発表、ミニ事例発表の有無

参加者の事前レポートの内容をもとに、各大学の状況報告をお願いする。また、先進事例については30分程度のミニ事例をお願いする。

### 4. 参加者レポート

自校の人事・給与システムの構築・運用状況、特記すべき事例、このテーマに関する情報交換希望項目についてまとめたレポートの事前提出を参加の必須要件とする。

## B - 10 学園の戦略情報化

### 1. グループ討議のメインテーマ

「来るべきネットワーク社会に大学はどう対応していくか - 2005年に向けて - 」

### 2. グループ討議の内容・形態

平成12年に政府に設立された高度情報ネットワーク社会推進戦略本部が発表したe-Japan戦略では、世界最高水準の高度情報通信ネットワークの形成、教育・学習の振興と人材の育成、電子商取引の促進、行政・公共分野の情報化、高度情報通信ネットワークの安全性と信頼性の確保という5つの重点計画を作成し、これを2005年までに実現しようとしている。また、本年7月3日にとりまとめられた知的財産戦略大綱などの動きがある。このような高度情報社会において、大学はどのような役割を果たし、どのように変革をしていくことが望まれるのか、その対応が社会から期待されてきている。

そこで今回の研修会においては、ネットワークを最大限に活用した教育(e-Learning)や発明・特許などによる大学の知的財産の活用など、学園の情報化を通じて戦略情報化のために何をなすべきかについて、様々な切り口で、現在の立場や職制を超えて討議を進めて行こうと考えている。

#### <キーワード>

- ・情報化戦略とブランドデザイン
- ・情報化戦略推進のマイルストーン
- ・ポータルシステム
- ・アウトソーシングの利用
- ・ヴァーチャルユニバーシティ

#### 3. 事例発表・ミニ事例発表の有無

レポートで提出されたキーワードに対する各自の考えや、学園としての基本方針（もし存在すれば）を発表してもら場合もある。

#### 4. 参加者レポートの形式

来るべきネットワーク社会についてイメージについては、政府の IT 戦略本部で公開されている資料を参考とし、このような環境下における自校の戦略的対応について参加者は自らの考えをレジュメにまとめて（A4で1枚程度）の事前提出を参加の必須条件とする。

### **B - 1 1 グループウェアを利用した業務改革**

#### 1. グループ討議のメインテーマ

「グループウェアの利用による情報共有と情報活用」

#### 2. グループ討議の内容・形態

WWW やメールが日常化した昨今、各大学において基幹業務システムの他にもネットワークを利用して様々な情報を共有することで、教育活動、経営指標など大学の意思決定に関わる情報の入手が容易となり、その結果、職員は大学改革に向けてそれぞれの立場でそれらの情報を活用することが求められるようになった。

このように、必要なときに必要な情報を入手して新しい情報をとりまとめ、それを多くの関係する職員に開示し、タイムリーに意見を聴取した上でさまざまな意思決定を行えるように、居ながらにしてコミュニケーションが可能となる情報環境が必要とされてくる。

そこで、本コースでは、今、注目されている「グループウェア」を取り上げ、理想的な情報共有のあり方と業務効率化の進め方について様々な角度から討議していきたいと考える。

#### <キーワード>

- ・共有化したい情報（意思決定に関する情報、日常業務での補助的情報、意見聴取のための情報等について可能性と限界を探る）
- ・情報のセキュリティ（取り扱い規定、モラル・マナー規定）
- ・運用体制（責任体制の確立、デジタルデバイドの問題）

#### 3. 事例発表・ミニ事例発表の有無参加者

参加者事前レポートの内容から、2～3のミニ事例発表をお願いします。

#### 4. 参加者レポートの課題

以下の点について自校および自分の考えをA4で1枚程度にまとめたものを提出する。

- ・すでにグループウェアを利用している大学について

導入のメリット・デメリット

実現できていないが将来行ってみたいコンテンツ

- ・導入していない大学について

日々発生する情報の伝達・届け出業務など日常業務の中での問題点・課題  
課を超えた業務情報や届け出業務など（箇条書き）

例 行事予定 業務連絡 訃報 名簿 会議室予約など

- ・参加者の部署内でのネットワークを利用した基幹業務についての状況

- ・その他情報交換希望項目

ネットワーク・セキュリティ・情報の取扱などの規定・内規などあれば同封すること。

## B - 1 2 ホームページを利用した情報公開と情報共有

### 1. グループ討議のメインテーマ

「多様化が進むホームページ」

### 2. グループ討議の内容・形態

ホームページは有効な広告媒体という観点から、いままでは大学として「知らせたい」情報を載せていたが、大学に問われるアカウントビリティという面から見ても、これからは社会が「知りたい」情報をどのように掲載していくか、が重要となっていくであろう。時には大学にとって積極的に出たくない情報、例えば予・決算情報、学生による授業評価、学内不祥事などの掲載も考慮しなければならない。危機管理にあたっては、マスコミと同様にホームページをいかに有効に利用することを広報・渉外部門では検討する必要がある。また発信するだけでなくホームページを見た事による様々な問い合わせ（メール）にも適切に対応することが必要となる。そして一般社会に対してだけでなく、教職員の情報共有といった利用法や、学生へのホームページを利用しての情報提供・情報収集などへの展開も充実させなければならない課題であろう。このようにホームページの役割は、日々拡大しウェブマスターの役割もさらに重要となる。

当コースではこうしたホームページの多様性に様々な角度から切り口を入れ、活発な討議を行うことで各大学のホームページ充実に寄与することをねらいとする。

<サブテーマ・キーワード>

- ・アカウントビリティ
- ・学生向けページ、教職員向けページ
- ・セキュリティ
- ・Web開発
- ・アウトソーシング
- ・フィードバック webマスターへのメール問い合わせ対応

### 3. 事例発表、ミニ事例発表の有無

参加者事前レポートの内容により、数件の事例発表等をお願いしたい。

### 4. 参加者レポートの形式

以下の項目について自校の状況をA4サイズ2枚以内にまとめ、事前提出を参加の必須要件とする。

- ・ホームページアドレス
- ・サブテーマ・キーワードの各項目に関する自大学の現状と課題
- ・このテーマに関する情報交換希望項目

